

# 都内中小企業の設備投資、資金繰り等の状況

四半期調査：平成29年第Ⅲ四半期（7～9月）

設備投資：5期連続で緩やかに回復

採算状況：やや後退する動き

資金繰り：ほぼ横ばいで推移

雇用人員：3期ぶりに「不足」感を強める

## 《 概要 》

### □設備投資

設備投資の動向を後方4四半期移動平均で見ると、当期（平成29年7～9月）に設備投資を「実施した」割合は19.8%となった。前期の19.6%から0.2ポイントとわずかに増加し、5期連続で緩やかに回復している。

来期の設備投資の「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は18.9%とわずかに減少する見通しになっている。

### □採算状況

当期の採算状況を採算D I（「黒字」－「赤字」）で見ると、▲0.9（前期0.2）と1.1ポイント悪化し、前期の改善からやや後退する動きとなった。

### □資金繰り

当期の資金繰り状況を資金繰りD I（「楽」－「苦しい」）で見ると、▲15.6（前期▲16.1）とほぼ横ばいで推移した。

### □雇用人員

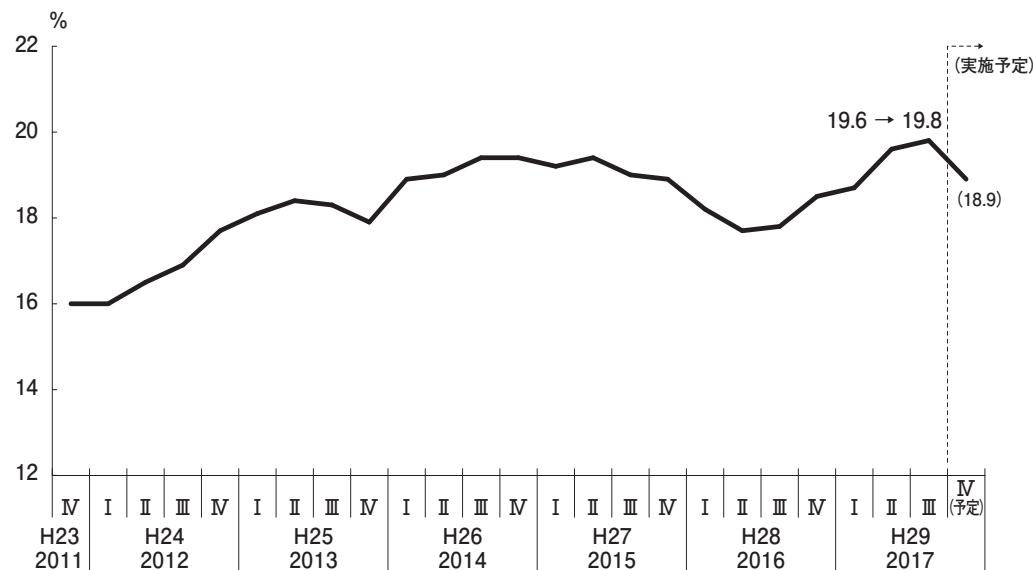
当期の雇用状況を雇用人員D I（「不足」－「過剰」）で見ると、20.3（前期15.9）と4.4ポイント上昇し、3期ぶりに「不足」感を強めた。

## ■設備投資■

設備投資の動向を後方4四半期移動平均で見ると、当期（平成29年7～9月）に設備投資を「実施した」割合は19.8%となった。前期（平成29年4～6月）の19.6%から0.2ポイントとわずかに増加し、5期連続で緩やかに回復している。

来期（平成29年10～12月）の設備投資の「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は18.9%と減少する見通しになっている。

図表1 設備投資の実施割合（全体）－後方4四半期移動平均－

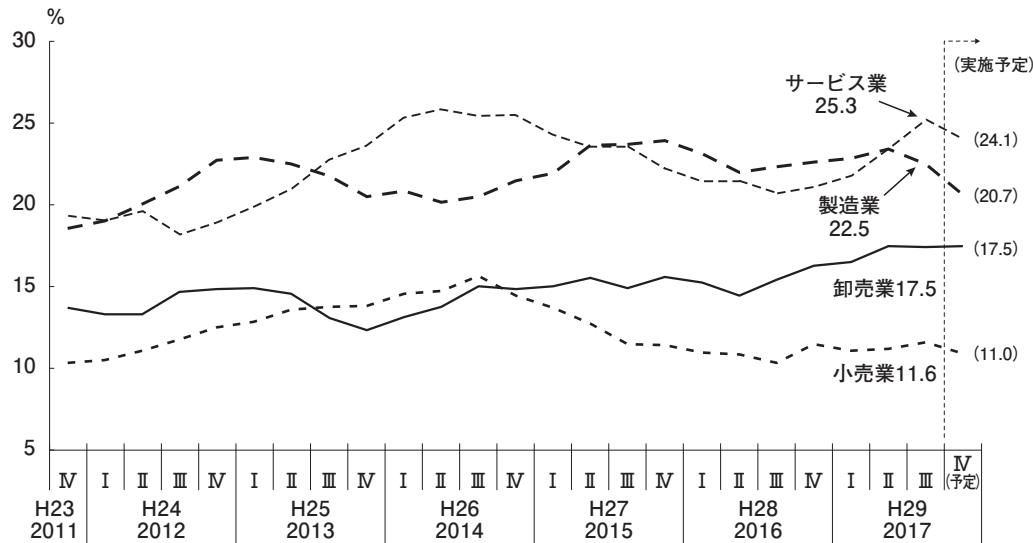


注）来期「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は、後方3四半期実績と来期予定の平均。

業種別にみると、設備投資を「実施した」割合は、サービス業が25.3%（前期23.5%）と4期連続で増加し、堅調な回復を見せている。また、小売業も11.6%（同11.2%）とわずかながら増加した。一方、製造業は22.5%（同23.4%）と5期ぶりに減少した。卸売業は17.5%（同17.5%）で横ばいとなった。

来期の設備投資の「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は、卸売業のみ17.5%と横ばいが見込まれている。他の業種はいずれも減少する見通しで、なかでも製造業は20.7%とやや大きな減少が見込まれている。

図表2 設備投資の実施割合（業種別）－後方4四半期移動平均－

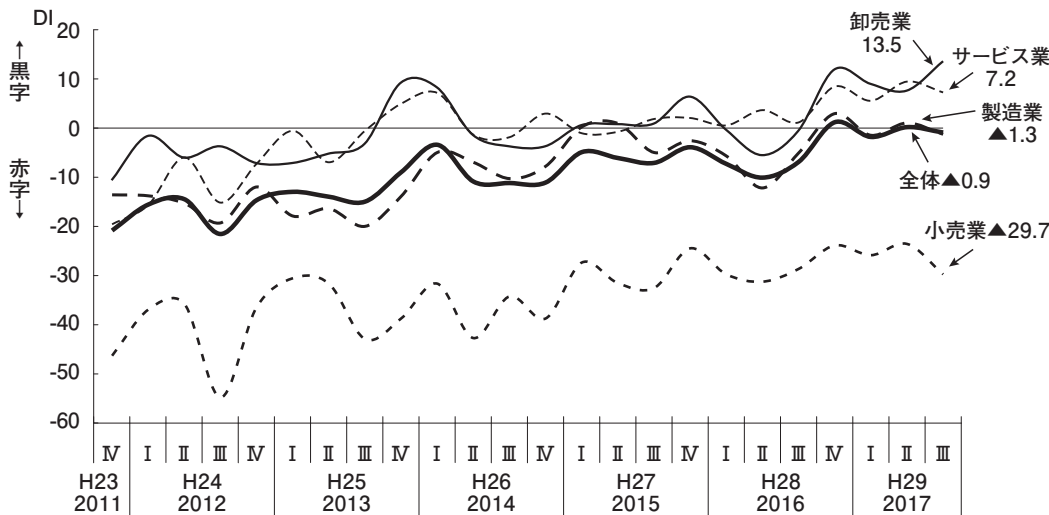


注) 来期「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は、後方3四半期実績と来期予定の平均。

■採算状況■

当期の採算状況を採算D I（「黒字」－「赤字」）でみると、▲0.9（前期0.2）と1.1ポイント悪化し、前期の改善からやや後退する動きとなった。

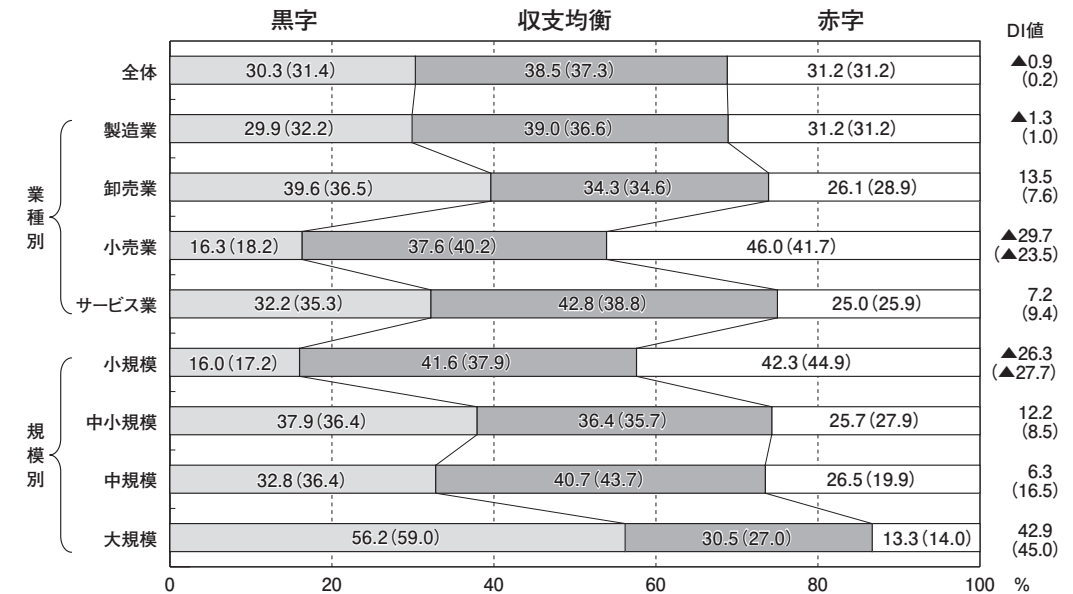
図表3 採算D Iの推移



業種別にみると、製造業▲1.3（前期1.0）は2.3ポイント、小売業▲29.7（同▲23.5）は6.2ポイント、サービス業7.2（同9.4）は2.2ポイントといずれも前期の上昇から一転して低下した。一方、卸売業13.5（同7.6）のみ5.9ポイントと大きく上昇し、前期の悪化から持ち直す動きとなった。

規模別にみると、中規模6.3（同16.5）は10.2ポイントと大きく悪化したほか、大規模42.9（同45.0）は2.1ポイントとやや悪化した。一方、小規模▲26.3（同▲27.7）は3期ぶりに、中小規模12.2（同8.5）は2期連続で改善した。

図表4 採算状況（業種別・規模別）



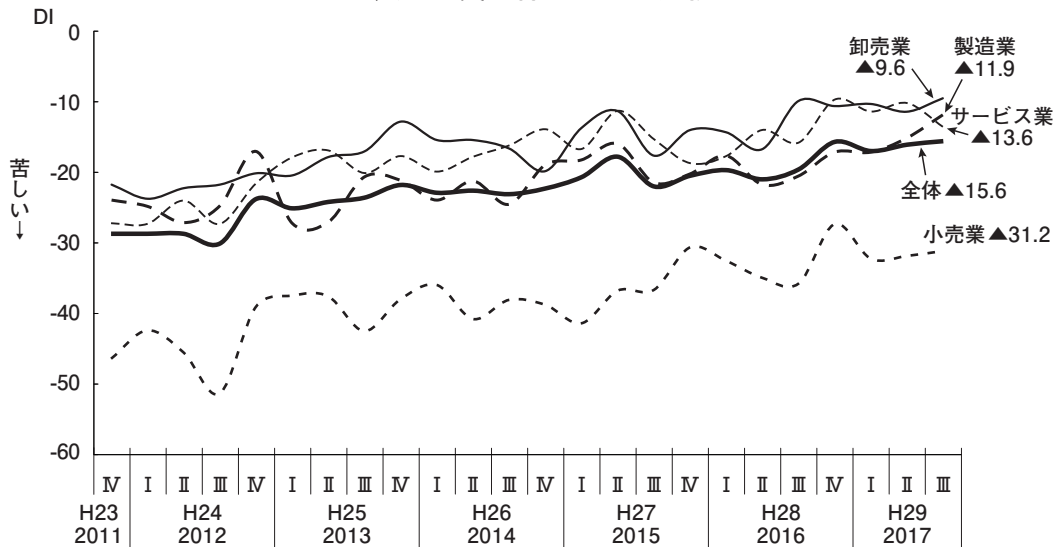
注) カッコ内は前期（平成29年4～6月）の数値。四捨五入のため合計が100にならない場合がある。規模別は規模不明を除く。

■資金繰り■

当期の資金繰り状況を資金繰りD I（「楽」－「苦しい」）でみると、▲15.6（前期▲16.1）とほぼ横ばいで推移した。

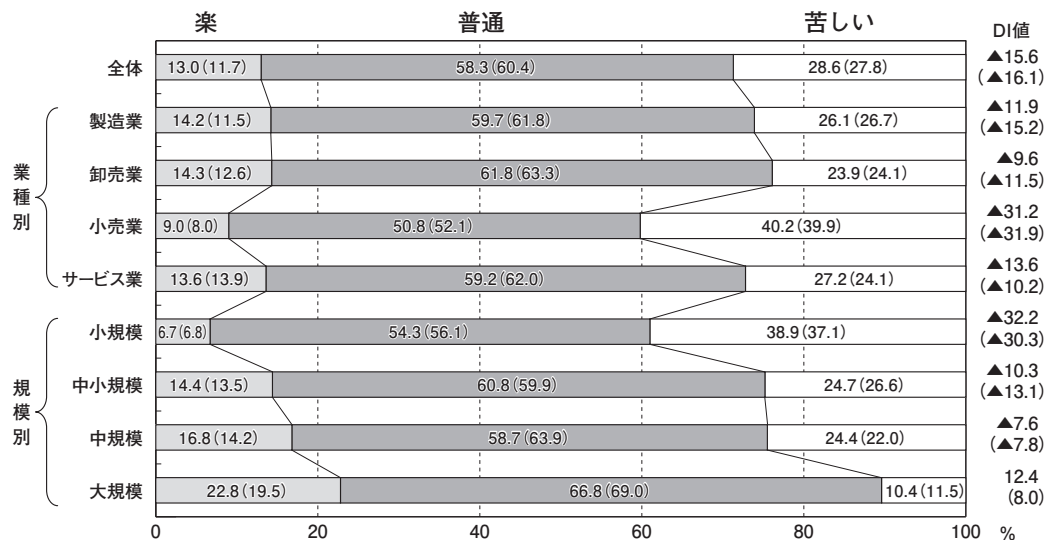
業種別にみると、製造業▲11.9（同▲15.2）は3.3ポイント上昇し、2期連続で改善した。卸売業▲9.6（同▲11.5）は1.9ポイントとやや上昇したほか、小売業▲31.2（同▲31.9）はほぼ横ばいで推移した。一方、サービス業▲13.6（同▲10.2）のみ3.4ポイント低下した。

図表5 資金繰りDIの推移



規模別にみると、小規模を除くすべての規模で資金繰りDIが改善した。大規模12.4(前期8.0)は4.4ポイント上昇し、5期連続で改善した。一方、小規模▲32.2(同▲30.3)のみ1.9ポイントとやや減少した。

図表6 資金繰り状況(業種別・規模別)

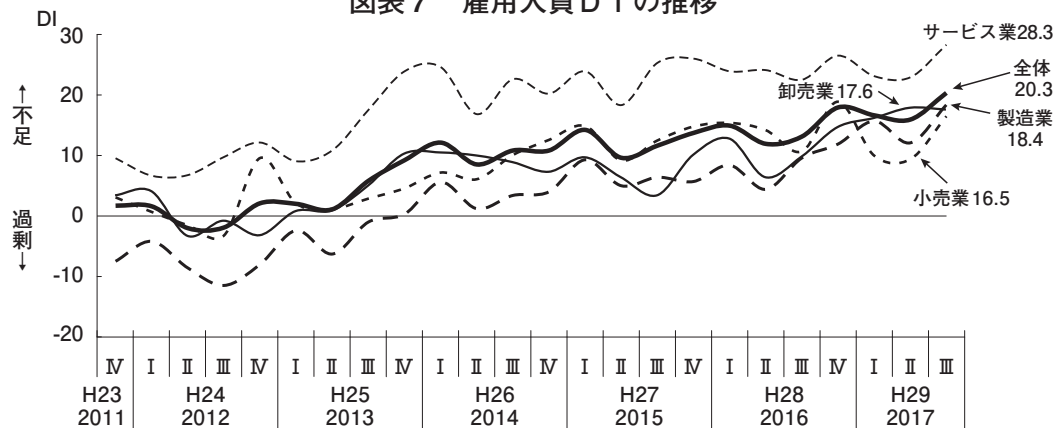


注) カッコ内は前期(平成29年4~6月)の数値。四捨五入のため合計が100にならない場合がある。規模別は規模不明を除く。

■雇用人員■

当期の雇用状況を雇用人員DI(「不足」-「過剰」)でみると、20.3(前期15.9)と4.4ポイント上昇し、3期ぶりに「不足」感を強めた。

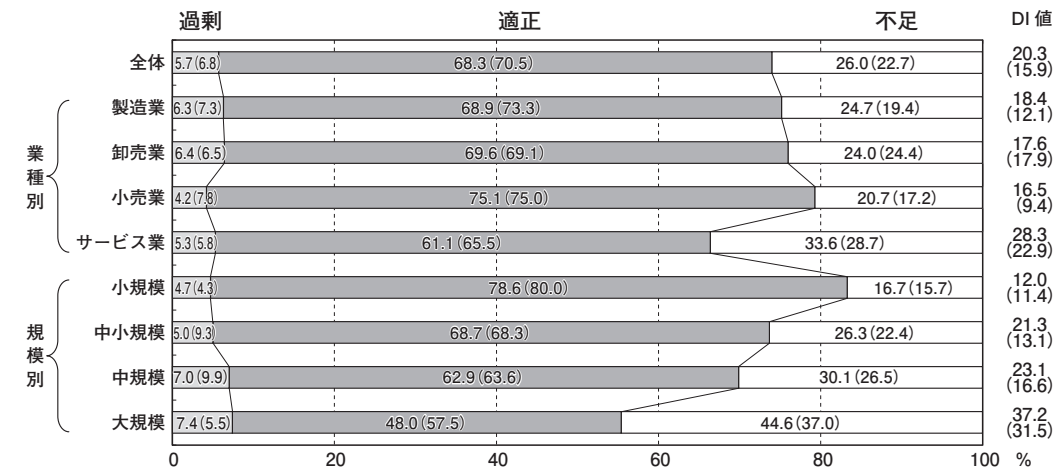
図表7 雇用人員DIの推移



業種別にみると、卸売業を除くすべての業種で上昇した。製造業18.4(前期12.1)は6.3ポイント、小売業16.5(同9.4)は7.1ポイント、サービス業28.3(同22.9)は5.4ポイントといずれも大きく上昇し、「不足」感を強めた。一方、卸売業17.6(同17.9)はほぼ横ばいで推移した。

規模別にみると、全規模で雇用人員DIが上昇した。特に中小規模21.3(同13.1)、中規模23.1(同16.6)、大規模37.2(同31.5)は大幅に上昇し、「不足」感を強めた。

図表8 雇用人員の状況(業種別・規模別)



注) カッコ内は前期(平成29年4~6月)の数値。四捨五入のため合計が100にならない場合がある。規模別は規模不明を除く。